

## こども教育専門会議 中間報告

住吉区こども教育専門会議

住吉区がめざす「子育て・教育のネットワークづくり」を行うにあたり、地域のネットワークや福祉的行政措置から漏れる子ども・保護者がいない状態をめざすうえで、「子どもの貧困」への取り組みに関わり、報告します。

### 1 委員における課題認識

現在の社会は、「格差社会」といわれるように学力・学歴・雇用・所得・家族関係などに関わる差異が拡大し、同時にそれらが子どもを取り巻く環境にも大きな影響を与えている。その背景には、子育て世代にある保護者層で非正規化が進む雇用状況、ひとり親家庭の増加、核家族化で家族や親族とのつながりが弱くなっていること、そして地域とのつながりの希薄化などといったことが挙げられる。

これまでの「貧困」に対する認識は、住む場所がない、食べるものがない、生活するためのお金がないなど、「絶対的」な視点による貧困について、「一部の人たち」を対象として行政が対処すべき課題（領域）として考えられてきた。

しかし、近年の子どもの貧困に関する調査研究などを通じて、「貧困」に対する社会の関心が高まり、「貧困」は誰にでも起こりうる身近な問題として認識されてきている。

特に、経済成長、生活様式の変化、情報量の増大などにより、「普通」に暮らしていくうえで必要な経済的条件（お金）を確保できない「相対的」貧困の層が増えている。社会に参加し社会の一員として生活するうえでの「必要」を欠く状態でもある。

その中で、子どもの貧困は「貧困の連鎖」を生むという点で社会全体にとっても大きな影響があること、貧困の状態や現れ方は多様であること、さらに貧困は、経済的な貧しさだけでなく、地域からの孤立を伴っており（「ソーシャルキャピタル」の欠如）、そのために身近な日常生活の中で貧しい・困っている状態が見えにくくなっていることがわかってきている。

こうした状況は住吉区においても例外ではない。

平成28年6月～7月に大阪市が実施した「子どもの生活に関する実態調査」における調査結果では、住吉区においても経済的な事情が子どもの生活・成長・社会との関わりなどに影響を及ぼしていることが伺われ、金銭的不安・生活基盤の不安定が子どもの生活・社会・文

化的な経験の機会を奪い、結果的に学力の低下、社会とのつながりの減少、将来への不安などといった貧困につながる状況を生み出している。こうした状況は世帯数全体の割合からしても深刻であることがわかっている。

こども教育専門会議としては、住吉区におけるこうした状況を地域の重要な課題としてとらえ、子どもとの関わりを持つ場面において、子ども・保護者からの情報（サイン）を捉え、支援につなげていく必要があると考える。

## 2 平成 30 年度において議論した内容（取り組むべき方向性）

こども教育専門会議としては、この間の議論の経過を踏まえ、住吉区としての子どもの貧困対策として、「ソーシャルキャピタル（人・社会とのつながり）」の欠乏（孤立化）への対策を基本的な姿勢とし、子どもたちひとりひとりが子育て・教育・地域のネットワークから漏れることのないよう、以下の5つの視点により、つながりづくりを強化し、かつ、そのつながりが課題の改善に役立つよう取り組むべきと考える。

### 留意すべき視点

#### 1 子どもたちにとっての今が悪くても希望を持てるようになる環境づくり

子ども・保護者が経済的余裕のないことを理由に進学をあきらめない  
子ども・保護者が勉強や進学について、自分のしたいことを掲げることができる

～課題（貧困）がもたらす「あきらめ思考」の影響を軽視しない～

- ▶精神的貧困が与える影響は無視できない
- ▶課題を抱える人をさまざまな関わりへの機会に導く
  - ・いろいろな人、場面、ことがらに、多様な世代で関われる機会の提供

#### 2 子どもや保護者、家庭が誰かに困っていることを伝えていくことができる

子ども・保護者がSOSを発信できる。困り感を発信できる  
子ども・保護者が頼ることができる。甘えることができる  
子ども・保護者が弱いサインでも出せる。感情に素直になれる  
子ども・保護者が言葉以外のサインも出せる（腹・頭痛、イライラ、やる気がおこらない）

～予防的対応のための「気づき」・「気づける機能」の保有～

- ▶潜在する（していく）課題をつかむ「力」と分析「力」
  - ・妊産婦の時期、幼児期から課題は見えている
  - ・課題のサインに気づき、理解・分析し、関係者同士が持つ情報を共有する重要性を認識し、つなげていく「力」

- ・普段の様子からは捉えることができない課題が多い
  - ▶分析・評価・設定できる人的資源の必要性
    - ・専門人材の養成・配置（既存人材の活用含む）
  - ▶予防的視点として、特に子どもの「小さな声」をキャッチするための仕組みづくり
    - ・子どもの発信を促す（耕す）仕掛け、複数のアンテナでキャッチする（すくう）ための仕組みづくりと工夫が必要
- ⇒例えば、相談のための「場所」「機会」は、子どもや保護者が普段から利用している場所などで、雑談など気兼ねなく話すことができ、そこから受け入れてくれるような「場所」であること、また、そこで得られる情報をつなげることができるような仕組みが必要。また、SNSを利用した発信・対話といった双方向コミュニケーションができる環境の充実も思慮する必要がある。
- ⇒子どもや保護者がSOSを発信したり、必要なときに誰かに頼ることができる環境や仕組みが重要である一方、こうした発信や頼ることが困難な状況がある者に対し行政等から家庭に積極的に関わることができる仕組みが重要。

### 3 学校と地域がつながっていることを子どもたちが実感できる

- 子ども・保護者が学校でありのままの姿を見せられる
- 子ども・保護者が家庭で抱えている悩みを言える（保健室、教員、SSW、SC等）
- 子ども・保護者が登下校時の見守り隊等にサインを出せる（学校と見守り隊の情報共有強化）

～学校現場が持つ情報にアンテナを張ることの重要性～

- ▶支援のネットワークの要素として、学校が重要となる。学校を、子どもに関わる情報収集のための「プラットフォーム（基盤）」として考えていきたい。子どもに関わるソーシャルキャピタルの欠乏への対処を図るために、学校と地域資源とのつながりを太くしていくことが必要

### 4 子どもが「守られている」ことを実感できる

- 子ども・保護者が人を信頼することができる
- 子ども・保護者が自らの辛さや悲しみを訴えても受け止めてくれる人と繋がる
- 子ども・保護者が人と対等につながる
- 子ども・保護者が地域に出向くことができる場（空間・人）を持っている

～人的関わりが希薄となっている 状態に課題がある（家庭内・学校・地域社会）～

- ▶孤立・孤独の状態を察知・見極めると同時に地域全体の「つながり」づくり
    - ・情報がある場所（学校・地域団体等）と相互にゆるくつながり、お互い顔の見える話しやすい関係であること
- ⇒近所の人、地域の活動団体など多様な主体が、地域内での他の社会資源を認知・把握し、また、つなげることで、重層的な支援体制をつくり、結果的に子どもを支援

先につなぎ、子どもの自己実現を図っていけるようにする。

- ・住吉区にある子どもを取り巻く既存のネットワークを改めて見たうえで、何を強化していくのかを見定めること

⇒人と人をつなぎ地域の担い手を育成するうえでは、地域住民などの多様な主体が自ら支援者になり得ると意識できる機会をつくり、担い手となる地域の支援者への研修並びに互いに情報共有し学び合う場の機会や仕組みを提供していかなければならない。

## 5 子どもが誰ひとり見捨てられず、ネットワークから漏れず、地域ぐるみでいろいろな人々に見守られている

子ども・保護者が様々な困り事の相談窓口を知っている  
子ども・保護者が困り感を発信でき、それに対応してくれる資源を認識している

～さまざまな「情報」を束ね、対処し、地域ぐるみでいろいろなひとが子どもたちを見守る部門の重要性～

- ▶地域のつながりなどのネットワークから得られる情報を取り扱い、具体的な対応方針を組み立て、解決資源につなげ、または解決できる知識・技能を有する部門の整備・強化

⇒専門的知識・技能を持つ人材が、課題のある者をどこにどうつなげていくかをマネジメントし、または直接対処を図ることで支援・ケアを強力にすすめることができる部門・システムの存在は必要不可欠。

### 3 今年度以降の展開

以上の視点を総括的に内包した機能（システム）について、区役所並びに既存の地域資源との関わりを通じて構築していくことが必要であると考えます。

機能（システム）構築にあたっては、既に住吉区内には様々な福祉的支援制度・ネットワーク（団体）が存在しており、現状の支援メニューを互いにつなげていくことでより具体的な支援効果をもたらすものもあると考えられ、専門的知識・技能を持つ部門のサポートを通じ、これらを有機的につなげるための支援が重要であると考えます。

今後、ネットワークが既に保有するノウハウを活かしながら、子ども・家庭とつながり、その課題にアプローチし、支援につなげてほしい。そのために必要なスキルの習熟に対するサポートも欠かせない。

（以上）

住吉区こども教育専門会議委員 (委員長以降五十音順)

森 久佳 (委員長)

五十嵐 誠

石川 一朗

菅野 尚美

栗谷 信之

齋藤 恵子

阪野 恵以子

中島 尚美

西野 真知子

松塚 尚起

宮川 成雄

住吉区こども教育専門会議 オブザーバー (五十音順)

大倉 有紀

北野 元靖

林 憲治郎